

2020年3月31日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
(コード番号 8306)
株式会社三菱UFJ銀行

2020年3月期通期決算（日本基準）における のれん一括償却に伴う特別損失の計上について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 三毛 兼承、以下 MUFG）は、連結子会社である株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 三毛 兼承）が実施する、インドネシア共和国の大手商業銀行 PT Bank Danamon Indonesia, Tbk.（以下バンクダナモン）、およびタイ王国の大手商業銀行 Bank of Ayudhya Public Company Limited（以下アユタヤ銀行）の株式の減損処理に伴い、2020年3月期通期の連結決算（日本基準）において、のれんの一括償却（以下本償却）による特別損失を計上することといたしました。

1. 特別損失の内容

MUFG および三菱UFJ銀行は、東南アジアのビジネスプラットフォーム構築に向けた戦略出資などを通じて同地域の商業銀行業務を強化してまいりました。バンクダナモン／アユタヤ銀行（以下両行）への戦略出資については、2019年4月／2013年12月に実施、MUFG および三菱UFJ銀行の連結子会社といたしました。現在、三菱UFJ銀行が所有する両行の普通株式の所有割合は94.1％／76.9％です。

両行の2020年3月31日時点の株式の市場価格が取得原価と比較して50%以上下落したことに伴い、三菱UFJ銀行は当該株式の減損処理を行います。その結果、MUFG は連結決算において、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」の規定に基づき、本償却を行うことといたしました。

2. 業績・業務に与える影響について

本償却に伴う、2020年3月期通期決算（日本基準）における「親会社株主に帰属する当期純利益」への影響額は、バンクダナモンで2,128億円¹⁾、アユタヤ銀行で1,305億円を見込んでおります。

2020年3月期通期の業績目標²⁾に与える影響につきましては、本償却による特別損失に加え、足元の金利・株価・原油価格の急激な変動による影響などを含めて、現在精査中です。今後開示すべき事項が生じた場合は、速やかに開示いたします。

両行は、東南アジアにおいて広範かつ強固な事業基盤と高い収益性を有しており、MUFG のグローバルコマーシャルバンキング（以下 GCB）事業戦略において極めて重要な役割を担っております。当該損失計上後も、MUFG の GCB 事業戦略に変更はありません。今後、両行とのシナジーを一層追求し、東南アジアで事業を展開されるお客さまに対して総合的な金融サービスを提供するとともに、東南アジア経済の発展にも貢献してまいります。

- [1] 2020年3月期第3四半期の連結決算（日本基準）において、のれん一括償却による特別損失（2,074億円）を計上していましたが、2020年3月末においてもバンクダナモンの株価が回復しなかったことから、2020年3月期通期の連結決算（日本基準）において、特別損失の計上が確定したものです。

2019年12月30日発表のプレスリリースは以下リンクをご参照ください。

（ウェブサイトへのリンク） https://www.mufg.jp/dam/pressrelease/2019/pdf/news-20191230-001_ja.pdf

- [2] MUFGは、銀行業、信託銀行業、証券業、クレジットカード・貸金業などの金融サービス業を展開しておりますが、これらの業務には、経済情勢、相場環境などに起因するさまざまな不確実性が存在するため、業績予想に代えて、親会社株主に帰属する当期純利益の目標値（7,500億円）を公表しております。

2020年2月4日発表のプレスリリースは以下リンクをご参照ください。

（ウェブサイトへのリンク） https://www.mufg.jp/dam/pressrelease/2020/pdf/news-20200204-001_ja.pdf

MUFGによる将来予想に関する記述についての注意事項

本資料には将来予想に関する記述が含まれています。将来予想に関する記述には、「予定する」、「見込む」やその他類似する表現により将来の状況などを説明しております。実際の結果などは、将来予想に関する記述にて見込まれる予想とは大幅に異なる場合があります。MUFGは、法令により求められる場合を除き、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を負いません。したがって、本資料に含まれる将来に関する記述はあくまでも現時点でのものであり過度に依存いただくことのないようご注意ください。

以 上